

市民の歯科口腔保健の状況について

1. 現在の把握方法等

(1) 京都市の実施する事業等の結果から経年的に把握している項目

歯科相談事業，乳幼児歯科健康診査，児童・生徒定期健康診断や各事業の結果・実績から把握する。

（事業報告等から評価を行う項目の例）

- ・ 3歳でむし歯のある市民の割合
- ・ 6歳でむし歯のある市民の割合
- ・ 中学生の歯ぐきの状態について専門家の診断が必要とされた市民の割合
- ・ 40歳代，60歳代で進行した歯周炎を有する市民の割合

(2) 市民への意識調査や対象となる施設等への状況調査によって把握している項目

経年的には把握しておらず，調査年度あるいは策定・評価等の必要時に，市民や対象施設への調査（アンケート等）を実施し，把握する。

（市民への意識調査で評価を行う項目の例）

- ・ 20歳以上でこの1年間に歯科健診を受けている市民の割合
- ・ 60歳代で咀嚼良好な（なんでも噛んで食べることができると回答した）市民の割合
- ・ 70歳以上で20歯以上の自分の歯と有する市民の割合

（対象施設への状況調査で評価を行う項目の例）

- ・ 障害者（児）入所施設における定期歯科健診の実施率
- ・ 要介護高齢者施設における定期歯科健診の実施率

2. 市民の歯科口腔保健の状況（実施計画に基づく数値等）

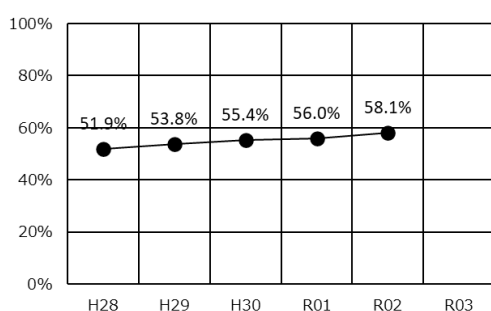
(1) 胎児期（妊娠期）

ア 実施計画に基づく数値

項目	評価年度 調査年度	平成 29		平成 30	令和元	令和 2	令和 3		目標
		平成 27	平成 28	平成 29	平成 30	令和元	令和 2	令和 3	
① 妊娠中に歯間清掃用具（デンタルフロスや歯間ブラシ等）を使用している市民の割合	出典 a	—	51.9%	53.8%	55.4%	56.0%	58.1%	—	60% 以上

出典：(a)京都市成人・妊婦歯科相談実績（問診票）

①妊娠中に歯間清掃用具を使用している市民の割合



<関連する国数値> なし

【実施計画に基づく数値の状況（直近 5 年間の傾向）】

- ◎ 妊娠期の歯科保健行動に係る指標である数値①については、目標に至っていないが、増加傾向がみられる。

イ 実施計画以外の関連数値

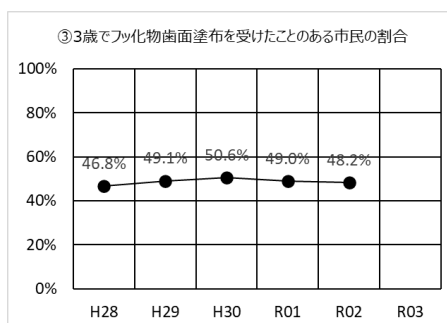
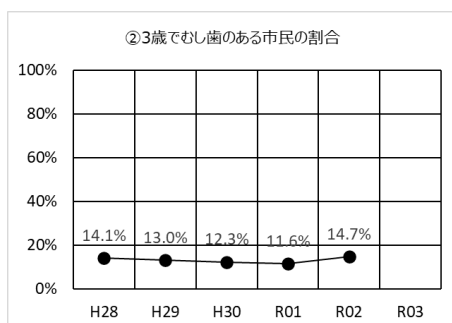
事業名又は調査名	項目	実施年度				
		平成 28	平成 29	平成 30	令和元	令和 2
母子保健に関する意識調査（京都市）	妊娠中に受けた	—	—	54.3%	—	—
	育児中に受けた	—	—	42.7%	—	—
	受けたくても受けられない	—	—	6.5%	—	—
	必要性を感じない	—	—	1.5%	—	—
	受けていない	—	—	20.1%	—	—

(2) 乳幼児期

ア 実施計画に基づく数値

項目	評価年度 調査年度	平成 29		平成 30	令和元	令和 2	令和 3		目標
		平成 27	平成 28	平成 29	平成 30	令和元	令和 2	令和 3	
② 3 歳でむし歯のある市民の割合	出典 b	—	14.1%	13.0%	12.3%	11.6%	14.7%	—	10% 以下
③ 3 歳でフッ化物歯面塗布を受けたことのある市民の割合	出典 c	—	46.8%	49.1%	50.6%	49.0%	48.2%	—	55% 以上
④ 3 歳で不正咬合等がみとめられる（咬み合わせや歯並び等で経過観察が必要と判断された）市民の割合	出典 b	—	14.6%	13.4%	14.4%	15.4%	14.9%	—	10% 以下

出典：(b)京都市 3 歳児歯科健康診査（口腔診査），(c)京都市フッ化物歯面塗布事業受診票利用実績



＜関連する国数値＞

- ▶3 歳児でう蝕のない者の割合
88.1%（令和元年度）
出典：厚生労働省実施状況調べ（3歳児歯科健康診査）
- ▶3 歳児で不正咬合等が認められる者の割合
14.0%（令和元年度）
出典：厚生労働省実施状況調べ（3歳児歯科健康診査）

【実施計画に基づく数値の状況（直近5年間の傾向）】

- ◎ 乳幼児期のむし歯に係る指標である数値②は、平成28年度から令和元年度まで経年的に減少していたが、令和2年度には一転増加した。
- ◎ 乳幼児期のむし歯予防のための歯科保健行動の指標とした数値③は、利用率50%前後で推移しているが目標には至っていない。
- ◎ 乳幼児の口腔機能に係る指標である数値③については、目標値には至らず、13～15%前後で推移している。

イ 実施計画以外の関連数値

事業名又は調査名	項目	調査(実施)年度				
		平成28	平成29	平成30	令和元	令和2
健やか親子21 アンケート(3歳児) (京都市)	お子さんのかかりつけ歯科医師がいる	—	38.4%	38.2%	39.8%	45.9%

健やか親子21(第2次)(厚労省,平成27年度～令和6年度) 歯科関連指標

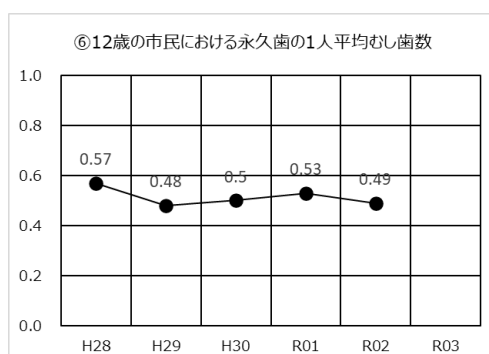
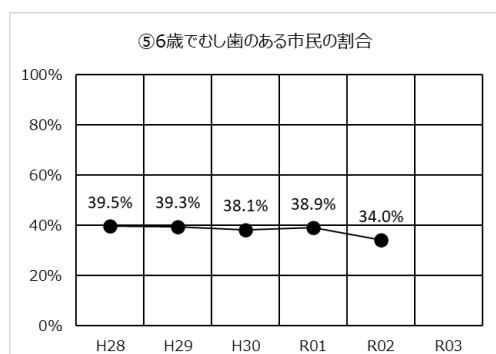
- ・ むし歯のない3歳児の割合の増加(目標90%)
- ・ 子どものかかりつけ歯科医師を持つ親の割合の増加(目標55%)
- ・ 仕上げ磨きをする親の割合の増加(目標80%)
- ・ 歯肉に炎症がある十代の割合の減少(目標20%)

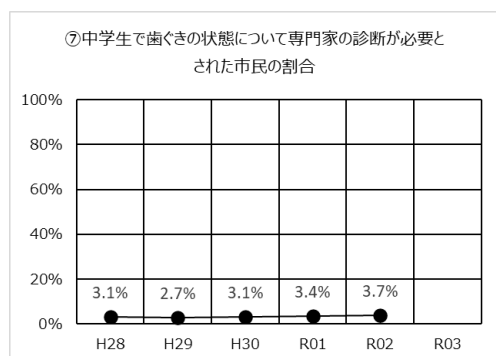
(3) 少年期

ア 実施計画に基づく数値

項目	評価 年度 調査 年度	平成29		平成30	令和元	令和2	令和3		目標
		平成27	平成28	平成29	平成30	令和元	令和2	令和3	
⑤ 6歳でむし歯のある市民の割合	出典 d	—	39.5%	39.3%	38.1%	38.9%	34.0%	—	35% 以下
⑥ 12歳の市民における永久歯の 1人平均むし歯数	出典 d	—	0.57 歯	0.48 歯	0.50 歯	0.53 歯	0.49 歯	—	0.5 歯 以下
⑦ 中学生で歯ぐきの状態について 専門家の診断が必要と判断された 市民の割合	出典 d	—	3.1%	2.7%	3.1%	3.4%	3.7%	—	減少

出典:(d)「京都市立学校・幼稚園」児童・生徒定期健康診断集計表





<関連する国の状況>

- ▶12歳児でう蝕のない者の割合の増加
68.2%(令和元年度) 出典:文部科学省「学校保健統計調査」
- ▶12歳児の一人平均う歯数が1.0未満である都道府県の増加
37 都道府県(令和元年度) 出典:文部科学省「学校保健統計調査」
- ▶中学生・高校生における歯肉に炎症所見を有する者の割合
19.8%(平成28年度) 出典:文部科学省「学校保健統計調査」

【実施計画に基づく数値の状況(直近5年間の傾向)】

- ◎ 小中学生のむし歯の状況に係る指標である数値⑤は経年的に減少し、令和2年度値では目標値に至っている。同様の指標である数値⑥については、おおむね減少傾向にあるが、目標値前後を推移している。
- ◎ 中学生の歯ぐきの状況に係る指標である数値⑦については3%前後を推移している。

イ 実施計画以外の関連数値

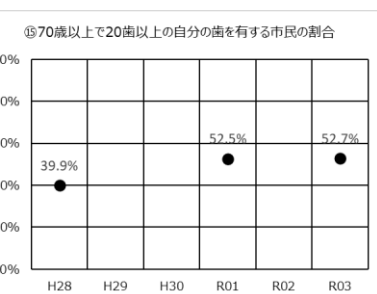
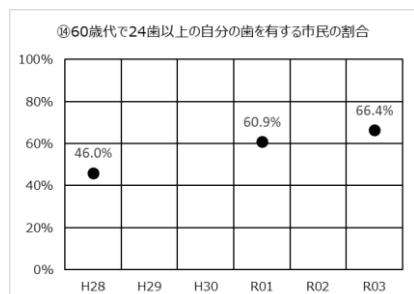
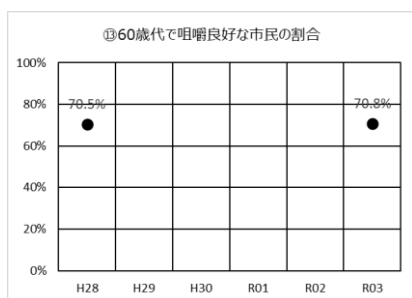
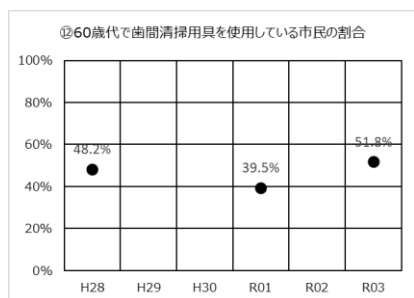
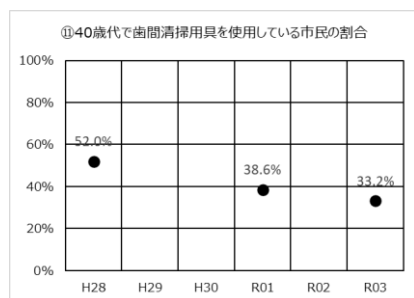
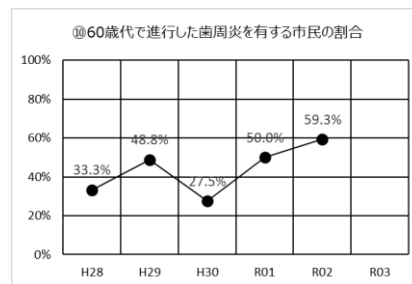
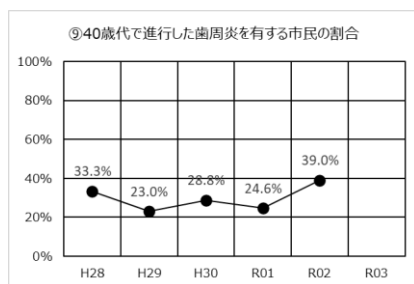
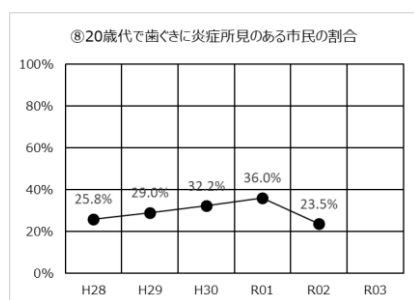
事業名又は調査名	項目	調査(実施)年度				
		平成28	平成29	平成30	令和元	令和2
児童・生徒 定期健康診断 (京都市)	12歳児のう歯所有率	23.9%	20.8%	21.5%	21.5%	18.2%

(4) 青年期・壮年期・中年期・高齢期

ア 実施計画に基づく数値

項目	評価 年度 調査 年度	平成29		平成30	令和元	令和2	令和3		目標
		平成27	平成28	平成29	平成30	令和元	令和2	令和3	
⑧ 20歳代で歯ぐきに炎症所見のある市民の割合	出典 a	—	25.8%	29.0%	32.2%	36.0%	23.5%	—	20% 以下
⑨ 40歳代で進行した歯周炎を有する市民の割合	出典 a	—	33.3%	23.0%	28.8%	24.6%	39.0%	—	25% 以下
⑩ 60歳代で進行した歯周炎を有する市民の割合	出典 a	—	33.3%	48.8%	27.5%	50.0%	59.3%	—	30% 以下
⑪ 40歳代で歯間清掃用具(デンタルフロスや歯間ブラシ等)を使用している市民の割合	出典 e, f	—	52.0%	—	—	(38.6%)*	—	(33.2%)*	60% 以上
⑫ 60歳代で歯間清掃用具(デンタルフロスや歯間ブラシ等)を使用している市民の割合	出典 e, f	—	48.2%	—	—	(39.5%)*	—	51.8%)*	55% 以上
⑬ 60歳代で咀嚼良好な(なんでも噛んで食べることができると回答した)市民の割合	出典 e, f	—	70.5%	—	—	—	—	70.8%	80% 以上
⑭ 60歳代で24歯以上の自分の歯を有する市民の割合	出典 e, f	—	46.0%	—	—	60.9%	—	66.4%	60% 以上
⑮ 70歳以上で20歯以上の自分の歯を有する市民の割合	出典 e, f	—	39.9%	—	—	52.5%	—	52.7%	45% 以上

出典:(a)京都市成人・妊婦歯科相談(口腔診査), (e)H28京都市市政総合アンケート, (f)R1, R3京都市健康づくりに関するアンケート
(参考値)*:歯間清掃用具を使用することを心がけている者の割合



<関連する国数値>

- ▶20歳代における歯肉に炎症所見を有する者の割合 21.1% (平成30年度) 出典:厚生労働省「国民健康・栄養調査」
- ▶40歳代における進行した歯周炎を有する者の割合 44.7% (平成28年度) 出典:厚生労働省「歯科疾患実態調査」
- ▶60歳代における進行した歯周炎を有する者の割合 62.0% (平成28年度) 出典:厚生労働省「歯科疾患実態調査」
- ▶60歳代における咀嚼良好者の割合 71.5% (令和元年度) 出典:厚生労働省「国民健康・栄養調査」
- ▶60歳で24歯以上の自分の歯を有する者の割合 74.4% (平成28年度) 出典:厚生労働省「歯科疾患実態調査」
- ▶80歳で20歯以上の自分の歯を有する者の割合 73.4% (平成28年度) 出典:厚生労働省「歯科疾患実態調査」

【実施計画に基づく数値の状況（直近5年間の傾向）】

- ◎ 歯周病の状況に係る各年代の指標である数値⑧及び数値⑨、数値⑩は、目標値には至らず、おおむね増加の傾向を示している。
- ◎ 各年代の歯科保健行動に係る指標である数値⑪と数値⑫については、平成28年度値以降のデータが得られておらず（令和元・3年度値は参考）、傾向がわからない。
- ◎ 高齢期の口腔機能に係る指標である数値⑬については、平成28年度と令和3年度の比較ではほぼ変化がみられない。
- ◎ 高齢期の各年代での歯の数に係る指標である数値⑭と数値⑮については、おおむね増加傾向を示し、目標値に至っている。

イ 実施計画以外の関連数値

ライフ ステージ	事業名又は調査 名	項目	調査(実施)年度				
			平成 28	平成 29	平成 30	令和元	令和 2
中年期・高齢期 (40 歳～70 歳)	歯周疾患 予防健診事業 (京都市)	総合判定で要治療と判定された者の 割合	73.0%	82.1%	82.7%	76.3%	79.2%
中年期・高齢期 (40 歳～74 歳)	特定健康診査 (京都市国保)	食事をかんで食べる時の状況で 「なんでもかんで食べることができる」と回答した者の割合	—	—	—	—	80.3%
		「歯や歯ぐき、かみあわせなど気にな る部分があり、かみにくいことがあ る」と回答した者の割合	—	—	—	—	18.1%
		「ほとんどかめない」と回答した者の 割合	—	—	—	—	0.6%
高齢期 (75 歳)	後期高齢者歯科 健康診査(75 歳 お口の健診) (京都市)	口腔機能検査(飲み込み)で要注 意と判定された者の割合	—	—	4.7%	9.3%	6.1%
		口腔機能検査(発音)で要注意と判 定された者の割合	—	—	28.8%	18.6%	38.2%
		口腔機能検査(舌の動き)で要注意 と判定された者の割合	—	—	1.3%	0.5%	1.0%
		歯科評価で要精検とされた者の割 合	—	—	76.4%	67.5%	66.3%
		フレイル評価で「兆候を疑う」とされ た者の割合	—	—	18.6%	18.2%	13.7%
		フレイル評価で「要注意」とされた 者の割合	—	—	5.5%	7.1%	3.4%
高齢期 (65 歳以上)	すこやかアンケ ート(高齢者調 査) (京都市)	「口腔機能低下リスクあり」に該当 する者の割合	19.5%	—	—	23.6%	—
		「自分の歯は19本以下、入れ歯の 利用なし」と回答した者の割合	9.9%	—	—	9.6%	—

(5) 障害児者・要介護高齢者等

ア 実施計画に基づく数値

項目	評価 年度 調査 年度	平成 29		平成 30	令和元	令和 2	令和 3		目標
		平成 27	平成 28	平成 29	平成 30	令和元	令和 2	令和 3	
⑯ 障害者(児)入所施設における定 期歯科健診の実施率	出典 g	80.0%	—	—	—	—	—	—	90% 以上
⑰ 要介護高齢者入所施設(介護老 人福祉施設・介護老人保健施設) における定期歯科健診の実施率	出典 g	54.5%	—	—	—	—	—	—	60% 以上

出典：(g)H27京都市歯科保健医療サービス提供困難者普及啓発等推進事業アンケート

障害者基本計画(第4次)(内閣府、平成30
年度～令和4年度) 歯科関連指標
・ 障害者支援施設及び障害児入所施設に
おける定期的な歯科検診の実施率の増加
(目標 90%)

<関連する国数値>

▶障害者支援施設及び障害児入所施設での定期的な歯科検診
実施率 77.9%(令和元年度) 出典：厚生労働科学特別研究
▶介護老人福祉施設及び介護老人保健施設での定期的な歯科
検診実施率 33.4%(令和元年度) 出典：厚生労働科学特別研究

【実施計画に基づく数値の状況(直近5年間の傾向)】

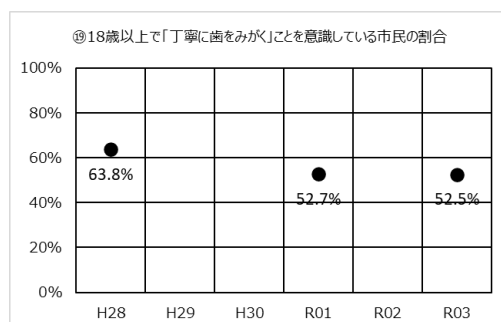
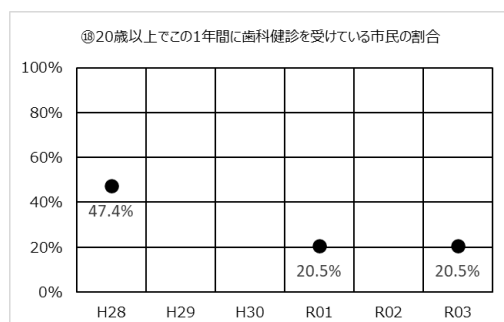
◎ 数値⑯と数値⑰については、平成27年度値以降のデータが得られておらず、傾向
がわからない。

(6) すべての市民

ア 実施計画に基づく数値

項目	評価 年度 調査 年度	平成 29		平成 30	令和元	令和 2	令和 3		目標
		平成 27	平成 28	平成 29	平成 30	令和元	令和 2	令和 3	
⑱ 20歳以上でこの1年間に歯科健診を受けている市民の割合	出典 e, f	—	47.4%	—	20.5%	—	—	20.5%	65% 以上
⑲ 18歳以上で「丁寧に歯をみがく」ことを意識している市民の割合	出典 e, f	—	63.8%	—	52.7%	—	—	52.5%	70% 以上

出典：(e)H28 京都市市政総合アンケート、(f)R1, R3京都市健康づくりに関するアンケート



<関連する国数値>

▶過去1年間に歯科検診を受診した者の割合 52.9%(平成28年度) 出典：厚生労働省「国民健康・栄養調査」

【実施計画に基づく数値の状況（直近5年間の傾向）】

- ◎ 青年期以降のすべての年代に共通する指標である数値⑱及び数値⑲については、目標値には至らず、また増加の傾向もみられない。

イ 実施計画以外の関連数値

ライフ ステージ	事業名 又は調査名	項目	調査(実施)年度				
			平成 28	平成 29	平成 30	令和元	令和 2
中年期・高齢期 (40歳～64歳)	すこやかアンケート(若年者調査) (京都市)	定期的な歯科受診(歯科健診を含む)をしている者の割合	37.2%	—	—	43.5%	—
高齢期 (65歳以上)	すこやかアンケート(高齢者調査) (京都市)	かかりつけ歯科医について、「いる」と回答した者の割合	—	—	—	66.6%	—
		「いないが、何かあれば受診する歯科医院は決まっている」と回答した者の割合	—	—	—	15.6%	—

第4次食育推進基本計画(農林水産省、令和3年度～令和7年度) 抜粋

- 健康寿命の延伸につながる食育を推進していくうえで、「噛む」「飲み込む」といった口腔機能が十分に発達し維持されることが重要である
- 具体的な目標として、「ゆっくりよく噛んで食べる国民の割合」の増加を掲げている。
- 小児期においては、歯・口腔機能の発達状況に応じた支援、成人期においては食べる速さ等の食べ方に着目した支援、高齢期においては口腔機能の維持・向上等の支援や口腔機能の低下による誤嚥・窒息の防止をはじめとした支援など、各ライフステージに応じた支援が必要とされている。